



奈良県橿原市

『お子様とそのご家族を笑顔にする』 を食の分野で目指す藤原京（ふじわらきょう）菜園

株式会社 鞆工房山本

WEB サイト：<https://www.fujiwarakyoaien.com/>

参入法人の概要

法人形態：リース法人
代表者名：代表取締役 山本 一暢
所在地：奈良県橿原市南浦町 899
年次：昭和 24 年（創業）
資本金：1,000 万円
親会社：—

営農形態：ハウス栽培
主要作物：トマト
経営面積：28a（借入 28a）
主な販売先：農産物直売所、量販店直売コーナー
売上額：約 2,700 万円（農業売上高）
従業員：常勤 1 名、非常勤 8 名

●農業に参入した目的を教えてください

株式会社鞆工房山本は、ランドセルや香久山鞆など革製品の製造販売を展開する会社です。

少子化によりランドセル需要の減少が予想されることから、鞆事業の拡大を目指すほかに新たな事業展開を模索する中、農業は国民生活を維持するためには今後も必要な産業であると考え、令和 3 年 1 月に農業参入を決断しました。

また、参入に当り創業地の橿原市には古き時代の都「藤原京」が存在していたことがあり、地元を大事にしたいとの思いから「藤原京菜園」と名付けました。



環境制御型 ICT ハウス

●当該土地を選んだ理由を教えてください

利便性を考え『本社から社員が容易に通える範囲内で借りられる農地がないか』と地元の農業委員会へ相談し、紹介していただきました。

●当該作物を選んだ理由を教えてください

ランドセルづくりの目的の一つである「お子様とそのご家族を笑顔にする」ことを食の分野でも実現するため、「子どもや孫に毎日でも食べさせられるもの」としてトマトを選び、栽培したトマトは「藤原京トマト」とネーミングしました。

●参入にあたって栽培技術面等の課題にどのように対応されましたか

素人の農業参入では即利益に繋げることは難しいと考え、企業の農業参入をサポートしているコンサルティング会社から栽培技術や農業経営での指導を受けながら取り組みました。

農地の貸借や環境制御型 ICT ハウスの建設に当たっては、橿原市や農業委員会に相談しつつ、必要な手続等への支援をいただき、認定農業者の認定を受けて半年間余りで着工にこぎつけることができました。

水耕栽培でよく導入される環境制御システム（温度、湿度、二酸化炭素量、根に送り込む水や養液を制御し、光合成を促進する）と土耕高設栽培を組み合わせ、土壌中の微生物の働きを活性化させながら病害虫の発生を最小限に抑えつつ収量を増やす「プロバイオシス農法」を導入しています。



施設内で栽培するトマト

●販売先、販路についてはどのように確保されましたか

農業者であれば農産物直売所と出荷利用契約を結べることから、それぞれの直売所へ申込を行いました。また、店舗内で直売コーナーを運営している近隣のスーパーをピックアップし、個別に商品（生鮮トマト）を持ち込んで商談を進めていきました。

さらに、地元の地域住民に自社のトマトの味と名前を憶えてもらいファン化を促進するとともに、そこから口コミによる知名度アップを狙い、直売所を自ら運営することにしました。

●農業参入してみて気づいた（参入するまで気づかなかった）のはどのようなことですか

計画段階で市や農業委員会と相談する中、農地貸借の承認に時間を要し、施設の建屋着工までには1年ほど要すると聞き、農業は他産業に比べて手続きにスピード感が無いと感じましたが、結果的には令和4年1月頃から相談に出向き、5月に申請、11月に着工ができ、半年間で進んだことには感謝しています。

また、対候性ハウスの整備や環境制御用機器の設置等で多くの費用が必要となりました。当社は企業としての信用や資金力があるために参入できましたが、資金力のない個人では苦勞するのだらうと思います。



自社ブランドのパッケージ

施設栽培では初期投資をいかに抑えるかが重要で、これができないと農業収益の黒字化には時間を要します。

●地域の方や農業委員会、JA、自治体との関係について気を付けていることがあれば教えてください

農業委員会や地元自治体は参入時に農地確保や施設整備の点で相談に応じていただき感謝しています。今後の事業拡大の面からも行政等から情報を提供していただける関係を維持したいと考えています。

●今後の経営方針について教えてください

環境制御システムを用いた太陽光利用型植物工場でのトマト栽培が順調な結果を出してきたことから、同様のシステムで「いちご栽培」にも取り組み、農業部門での収益向上を目指し「お子様とそのご家族を笑顔にする」を実践していきたいと考えています。

●今後、農業参入しようと考えている企業へのメッセージをお願いします

農業に参入しても利益を得られなければ事業としては失敗です。農作物は収穫しても売れないと収益には繋がりません。参入計画の段階でしっかりと販路を確保することが何より重要です。

また、施設栽培は初期段階の設備投資に多くの資金を必要とします。行政や金融機関等で活用が可能な支援を見つけられるように情報の取得は重要です。